

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 30 日現在

機関番号：14302

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009 年 ～ 2011 年

課題番号：21520137

研究課題名（和文）東アジアにおける語り物音楽の伝承並びに声の技法に関する比較分析研究
 研究課題名（英文）Comparative analysis of vocal techniques and the oral tradition of narrative recitation in East Asia

研究代表者 垣内 幸夫 (Kakiuchi Yukio)
 (京都教育大学・教育学部・教授)

研究者番号：50117420

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、東アジアにおける語り物音楽の声の技法を中心に比較分析し、その音楽的諸特徴並びに伝承の実態について明らかにすることにある。そのため、研究代表者は平成 21 年度から平成 23 年度にかけて、各ジャンルの演奏者に対してインタビューを行った。

インタビューの内容は、義太夫節・パンソリ・評弾の芸の伝承に関する話と、声の技法についての実演を伴った芸談であり、全てのインタビュー内容を映像に記録した。研究成果については、随時論文・研究発表等で公表してきた。

研究成果の概要（英文）：

The objectives of this study are a comparative analysis centering on vocal techniques of the oral tradition of narrative recitation in East Asia, and the clarification of its many unique musical characteristics and its present state. To this end, between 2009 and 2011 interviews of performers of the various genres were conducted:

All interviews were video-taped and concerned the oral traditions of Gidayu-bushi (Japanese narrative ballad story telling), Pansori (Korean narrative ballad story-telling) and Pingtan (Chinese spoken and sung story-telling), vocal techniques, and the present state of the interviewees' art forms.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・音楽学

キーワード：①芸術諸学 ②東アジア ③語り物音楽 ④声の技法

1. 研究開始当初の背景

東アジアの語り物音楽である義太夫節・パンソリ・評弾の声の技法を比較した音楽学的

研究は緒についたばかりである。このテーマと関連した先行研究は、文学的アプローチを除くと、国内はもとより海外においても殆ど

見当たらない。

研究代表者垣内幸夫は、中国福建省泉州提線木偶戲の語りについて、文楽の義太夫節との類似性を元に比較分析研究を行い、第7回中日音楽比較国際学術検討会（於：武漢音楽学院）において「泉州提線木偶戲と文楽 — 林文栄師聞書による比較研究 —」と題する研究発表を行った（『第7回中日音楽比較国際学術検討会 論文集』84～96頁、武漢音楽学院音楽学系、2007年9月）。泉州提線木偶戲と文楽の比較研究成果を発表したことにより、東アジアという視点でさらなる研究を展開する必要性を痛感するに至った。日中の語り物音楽の比較で得た知見を生かし、東アジアを対象を広げ、日本の義太夫節と韓国のパンソリ、中国の評弾の声の技法に焦点を当てて研究を進めて行く。

2. 研究の目的

本研究の目的は、東アジアの語り物音楽における声の技法を比較分析することにより、それぞれの音楽的諸特徴を整理し、さらに伝承者へのインタビュー並びに現地での調査によって、パンソリ・評弾の芸の伝承の実態を明らかにすることにある。研究代表者垣内幸夫は、長年にわたって日本を代表する語り物音楽である義太夫節の演奏・演出様式に関する音楽学的研究を行ってきた。本研究ではこれまでの義太夫節研究で得た知見を根幹に据えて、東アジアの語り物音楽である韓国のパンソリ、中国蘇州の評弾を対象に研究を展開して行く。具体的な研究対象は、パンソリ・評弾の伝承者の芸芸である。

近現代における東アジアの語り物音楽の表現技法の変化に対し、それぞれの伝承方法がどのように関わっているかという問題を探究することが、本研究の中心的課題である。

3. 研究の方法

研究方法はパンソリ・評弾の伝承者に対して直接インタビューを行い、声の技法と芸の伝承に関する実演を伴った芸談をデジタル・ビデオで映像資料として記録し、分析するというものである。この手法は、研究代表者がこれまで行った義太夫節研究で用いて来たものであり、本研究においても有効な方法であると考へた。

本研究期間内に行ったインタビューは、以下の通りである。

<平成21年度>

- ・平成21年8月18～19日、韓国全州市における金美貞氏へのパンソリに関するイン

タビュー

- ・平成22年1月31日、中国蘇州市における陶謀炯氏への評弾に関するインタビュー
- ・2月28日/3月21日、大阪市における安聖民氏へのパンソリに関するインタビュー

<平成22年度>

- ・平成22年9月12日、大阪市における南海星氏へのパンソリに関するインタビュー
- ・9月18～20日、韓国全州市における金美貞氏へのパンソリに関するインタビュー
- ・平成23年2月14日、中国上海市における秦建国氏への評弾に関するインタビュー
- ・3月8日、京都市における豊竹呂勢大夫氏への発声に関するインタビュー

<平成23年度>

- ・平成23年5月4日、中国上海市における秦建国氏への評弾に関するインタビュー
- ・9月28～30日、韓国全州市における金美貞氏へのパンソリに関するインタビュー
- ・12月26日、中国蘇州市における江文蘭氏への評弾に関するインタビュー（以上）

パンソリと評弾については、歴史的音源資料を収集し、現行の演奏と比較しながら表現様式の変遷を整理する。

研究対象であるパンソリ・評弾の声の技法については、語り物音楽の表現に関する専門的知識・技能を有する文楽太夫・豊竹呂勢大夫師の研究協力を仰ぎ、パンソリ・評弾の声の技法に関する諸特徴について、現地で収集した映像・歴史的音源資料を研究代表者と共に確認する。

4. 研究成果

平成21年8月18日～19日に韓国全羅北道立国楽院において、パンソリの伝承者である金美貞教授に対してインタビューを行い、芸の伝承に関する芸談並びに声の技法についての実演を映像資料として記録した。その際、全羅北道立国楽院における金美貞教授のパンソリクラスに4日間参加し、パンソリの基本である長短(チャンダン)を受講生とともに学習する機会を得た。パンソリ研究にとって長短の理解は重要課題であり、金教授の実演を伴った長短の解説を映像に記録できた

ことは初年度の大きな成果となった。金美貞教授のパンソリクラスの実情については、平成22年1月9日に建国大学校(韓国・ソウル市)において「全羅北道立国楽院・金美貞教授のパンソリクラスを体験して」と題する学会発表を行い、本研究の成果を公表した。

具体的な成果としては、国際学会において韓国全州における一般市民のパンソリ学習の実態を詳細に報告したことと、日本の研究者は元より韓国の研究者に対してもパンソリ享受の意義と重要性を広く知らしめた点にある。本発表は多くの参加者から評価された。同時に本発表において金演洙が創始した東超制の4代に亘る伝承の系譜を明らかにした。金演洙(1907~1974)→呉貞淑(1935~2008)→金美貞(1966~)→陳殷永(1991~)の演奏を比較することで、近代におけるパンソリの芸の変遷を研究する視点を確立した。

平成22年1月29日~2月1日の間、中国蘇州市において評弾の歴史的音源資料・映像資料並びに文献資料を収集した。また滞在中に蘇州評弾学校を訪れ、評弾の伝承の実態を調査した。同校の特別講師で評弾演奏家の陶謀炯氏にインタビューする機会を得、個人の演奏様式の集大成としての調について、実演を交えた芸談を映像に記録することができた。

平成22年9月12日に、来日中のパンソリ名唱・南海星氏に対してインタビューを行った。

平成22年9月18~20日に、韓国全羅北道立国楽院において、パンソリの伝承者である金美貞教授に対して昨年度に引き続きインタビューを行った。

平成23年2月9~17日の間、中国上海市において評弾に関する歴史的音源資料・映像資料並びに文献資料を収集した。また滞在中に上海評弾団を訪れ、評弾の伝承の実態を調査した。この時、同団の団長であり蔣月泉の蔣調の正統伝承者である評弾演奏家の秦健国氏にインタビューする機会を得た。その際、評弾の歴史的音源集『弾詞流派唱腔大典』の解説書を示し、個々の調の特徴と実態について説明を受けた。このインタビューは評弾の伝承と声の技法を探るための貴重な資料となった。

平成23年3月5日に、京都教育大学で開催された東洋音楽学会西日本支部第251回定例研究会の特別企画「パンソリの魅力を探る」において「私のパンソリ研究」と題する講演を行い、科学研究費補助金によるパンソリ研究で得られた成果を公表した。具体的には、「パンソリの音楽的特徴」として、パンソリの7種類の長短(チャンダン)の楽譜を配布し、チュンモリについての口唱歌を実践した。さらに、「制(ジェ)」(流派としての音楽的な特性や伝承地域の特色による演奏様

式)、「パディ」(個人の芸風に基づく演奏様式)、発声および声の技法、「チュイムセ」(掛声、相槌)、「ノルムセ」(身振り)について説明した。

また「パンソリの歴史的音源資料」に関して、それまでに文献研究によって得た知見を公開し、近代の5名唱・金昌煥(1854~1927、西便制)、宋萬甲(1865~1937、東便制)、李東伯(1866~1947、中高制)、金昌龍(1872~1935、中高制)、丁貞烈(1878~1938、西便制)を取り上げ、音源を聴きながら古い時代のパンソリについて紹介し、パンソリの最も古い録音についての考察結果を述べた。その後、『(社)東洋音楽学会 西日本支部だより 第69号』(2011年5月25日発行)に載った講演内容記録について、わが国の韓国音楽研究の第一人者である植村幸生氏から意見を頂くとともに、研究代表者が未見の音源資料の提供を受け、パンソリ最古の録音に対する更なる研究推進のための貴重な示唆を得た。

この例会では、同時にパンソリ唱者・安聖民氏の実演があり、実演後に安聖民氏に対して、パンソリの「制」「パディ」、声の種類と声の技法、長短と調の関係について、聞き手として公開でインタビューを行った。例会に参加した研究者をはじめ、『(社)東洋音楽学会 西日本支部だより 第69号』に載った講演記録によって、広く学会員に対してパンソリ研究の実情を伝えることができた。

平成23年3月8日に文楽太夫・豊竹呂勢大夫氏の研究協力を得て、評弾とパンソリの音源および映像を長時間にわたって共に確認しながら、義太夫節の声の技法との違いについて専門的立場からの意見を聞かせて頂き映像に記録した。

平成23年5月4日に上海評弾団団長の秦健国氏に対して再度インタビューを行った。

平成23年12月26日に、中国蘇州市において江文蘭氏に対してインタビューを行った。江文蘭氏は一時、蔣月泉の相手を勤めていた人物であり、蔣月泉の芸に関する貴重なお話を伺うことができた。そして歴史的音源集『弾詞流派唱腔大典』に所収の各調について、基本ピッチとテンポを分析し、各調の特徴について考察した。評弾に関する研究成果については、平成24年7月21日に開催の東洋音楽学会西日本支部第257回定例研究会(於：京都教育大学)において公表する。

また、本研究の成果を平成24年6月30日発行の『音楽教育学』(第42巻第1号、日本音楽教育学会)に掲載された拙稿「東アジアの語り物音楽研究—義太夫節・パンソリ・評弾の比較を通して考えたこと—」(24~31頁)において公表した。本論文では、義太夫節・パンソリ・評弾を「歴史」(文献研究)「演奏様式」「発声と声の技法」「伝承」(以上イン

タビュー)の各視点に沿って比較することで、それぞれの特徴を明らかにした。この論文は3年間の科学研究費補助金による研究成果の内、研究代表者が行ったインタビュー内容を精査して執筆したもので、そのオリジナリティが評価されるものである。

今後は、この3年間行ってきた義太夫節・パンソリ・評弾の比較による基礎研究を土台として、「近現代の東アジアにおける語り物音楽の演奏様式の変容に関する分析研究」を引き続き展開していく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 垣内幸夫「東アジアの語り物音楽研究—義太夫節・パンソリ・評弾の比較を通して考えたこと—」『音楽教育学』(第42巻第1号)日本音楽教育学会 査読有 2012年, 24~31頁
- ② 垣内幸夫「韓国魂の歌—パンソリ探訪記—」『京都教育大学広報 第123号』(海外見聞録)京都教育大学 査読無 2011年 7~8頁
- ③ 垣内幸夫「東アジアの語り物音楽—義太夫節・パンソリ・評弾の音楽的特徴に関する比較研究—」『京都教育大学広報 第126号』(研究余滴)京都教育大学 査読無 2010年 10~11頁
- ④ 垣内幸夫「全羅北道立国楽院・金美貞教授のパンソリクラスを体験して」『韓日合同音楽教育セミナー論文集』韓国音楽教育学会 査読無 2009年, 47~52頁

[学会発表] (計3件)

- ① 垣内幸夫「近現代における評弾の伝承について—一調の分析を中心に—」(研究発表)東洋音楽学会西日本支部第257回定例研究会、於：京都教育大学音楽演奏室 2012年7月21日(予定)
- ② 垣内幸夫「私のパンソリ研究」(講演)東洋音楽学会西日本支部第251回定例研究会、於：京都教育大学音楽演奏室 2011年3月5日
- ③ 垣内幸夫「全羅北道立国楽院・金美貞教授のパンソリクラスを体験して」(韓日合同音楽教育セミナー)韓国音楽教育学会 於：建国大学校(ソウル市) 2010年

[その他]
ホームページ

http://www.kyokyo-u.ac.jp/KOUHOU/126/126_kenkyu.pdf#search

http://www.kyokyo-u.ac.jp/outline/kankobutsu/kouhou/pdf/128_kaigai.pdf

6. 研究組織

(1)研究代表者 垣内 幸夫(KAKIUCHI YUKIO)
(京都教育大学・教育学部・教授)

研究者番号：50117420